

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676800214
法人名	社会福祉法人 隆愛会
事業所名	賀寿園グループホーム 愛
訪問調査日	平成20年9月2日
評価確定日	平成20年10月2日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4676800214
法人名	社会福祉法人 隆愛会
事業所名	賀寿園グループホーム 愛
所在地	志布志市志布志町安楽2814番地 (電話) 0994-73-8186
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年9月2日

【情報提供票より】(20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13人, 非常勤 人, 常勤換算 12.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	手塚クリニック たんぽぽオーラルケアクリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中、特別養護老人ホームを中核とした地域福祉・介護拠点の一角に建てられたホームである。「和顔愛語」の理念を基本として、笑顔と優しい言葉で接することを大切にされたケアを実践している。広報誌「わがんあいご」には、行事の様や日頃の暮らしぶりをはじめ、グループホームの役割やあり方についての連載コーナーを設けるなど、ご家族との良好な関係づくりに努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<独自の理念作成とその共有について>法人理念および運営方針に加えて、日々のケアを実践する上での基本的な考え方を、職員全員で理念としてつくり上げている。さらにホーム内に掲示するとともに、理念に反することがあった場合には、その都度職員会議等で再確認している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議において自己評価項目の説明を行い、管理者と職員で実施した後、全員に結果を報告している。外部評価の結果については、全員で改善に向けての具体案を話し合い、実践に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、ご家族をはじめ公民館長・行政担当者・消防関係者・警察関係者・医師など様々な立場の方が参加している。会議では、ホームの役割を説明したり、活動内容や状況報告、今後の計画等を報告しており、参加者からの質問や意見には迅速に返答し、サービス向上に活かせるように努めているが、今ところ定期的な開催には至っていない。わかりやすく充実した資料が準備されているので、関係者の理解と協力を得て定期的に開催していただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	行事に合わせて年2回の家族会を開催している。玄関には意見箱を設置しており、広報誌上で意見箱の必要性和活用について説明と呼びかけを行い、運営に反映するための取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員が自治会の役員になっており、地域の行事等に積極的に参加しながら交流を図っている。また、法人主催の夏祭りには、地域住民の参加もあり交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会との関わりの重要性を盛り込んだ運営方針を基に、ケアを実践する上での基本的な理念を職員全員でつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの入り口やリビングルーム、ステーションなど随所に理念を掲示している。管理者は、理念に基づいた具体的な対応方法を説明しながら、統一したケアが行えるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員が自治会の役員になっており、地域の行事等に積極的に参加しながら交流を図っている。また、法人主催の夏祭りには、地域住民の参加もあり交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議において自己評価項目の説明を行い、管理者と職員で実施した後、全員に結果を報告している。外部評価の結果については、全員で改善に向けての具体案を話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族をはじめ公民館長・行政担当者・消防関係者・警察関係者・医師など様々な立場の方が参加している。会議では、ホームの役割を説明したり、活動内容や状況報告、今後の計画等を報告しており、参加者からの質問や意見には迅速に返答し、サービス向上に活かせるように努めているが、今のところ定期的な開催には至っていない。	○	わかりやすく充実した資料が準備されているので、関係者の理解と協力を得て定期的に開催していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で行政担当者がホームを訪れることは少なく、暮らしぶりを見ていただく機会は十分とは言えない。	○	行政担当者と行き来する機会を増やし、ホームでの暮らしぶりを見ていただくなど、サービスの質向上に連携して取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「わがんあいご」に、日々の暮らしぶりや職員の紹介を写真とともに紹介しており、行事案内や心身の状態報告の手紙を添えて郵送している。その上で、必要に応じて随時、電話やファックスを活用して状態変化等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事に合わせて年2回の家族会を開催している。玄関には意見箱を設置しており、広報誌上で意見箱の必要性と活用について説明と呼びかけを行い、運営に反映するための取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を認識している。職員交代があった場合には、新しい職員が馴染むまではコミュニケーションを優先して身体介護を避けるなど、入居者へのダメージを最小限に防ぐための配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会や老人福祉施設協議会等が開催する研修および法人内の研修に、職員の経験や力量に応じて人選して参加を促している。さらに、スキルアップのための働きかけも行っているが、段階に応じた育成のための計画は今のところ立てられていない。		職員の技量や経験、立場等の段階に応じて育成するための、計画的な研修体制づくりに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実務者研修の実習施設として実習生を受け入れたり、他のグループホームへ研修に出かけるなど、同業者との交流や意見交換を行う機会を設けており、サービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学していただいて一緒にお茶を飲んだり、職員が自宅を訪問して面談するなど、納得した上でサービス利用が出来るように工夫している。また、入居後もご家族の面会を促しながら、安心して暮らすことができるように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯や食事づくりなどの家事を手伝ってもらったり、調理方法を教えてもらうなど、入居者の経験や知識から生活の知恵を学ばせてもらう機会を多くつくりながら、互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の自己決定を尊重し、選択する機会を多く持てるよう努めている。行動や言葉から希望や思いをくみ取り、職員間で話し合いながら情報やケアの方法を共有できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族から思いや意見を聞きとり、3ヶ月毎のモニタリング実施とカンファレンスを開いて、支援経過や職員からの意見を含めて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族の面会時や電話の際に意見や要望を聞き、それらを取り入れながら状態の変化時や、定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	相談や問い合わせの内容により、グループホーム以外の施設や在宅サービスの紹介など、母体法人内の関連事業所と連携を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な場合は職員が同行したり往診を受けるなど、柔軟に対応している。受診の際は、バイタルサインや介護経過の情報を医療機関へ提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前にホームの方針を説明しており、病状悪化等の変化に応じてご家族を交えて話し合い、ケアの方法等について同意を得た上で職員に周知して方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人ひとりの尊厳に配慮した声かけ・対応に心がけており、新入職者への指導も行い、誓約書を交わしている。また、経過記録等の個人情報については適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間にとらわれず、食事や起床・就寝の時間をはじめ日中の過ごし方も、それぞれのペースを尊重して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を基に献立を立て、メニューによっては代替品を準備するなど、個別の好みに合わせた配慮もなされている。入居者と一緒買い出しに出かけたり、畑で採れた野菜やご家族から差し入れられた季節の食材を取り入れながら、食事が楽しみなものになるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後からと決まっているが、季節や入居者の状態並びに希望に応じて、いつでもシャワー浴や部分浴、清拭で対応できるようになっている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ゴミ出しや植木の水やり、季節行事の準備など、できることや得意なことを把握して、それぞれの力量を活かした役割を持てるように支援している。また、希望があればドライブや日用品、衣服の買い出しに出かけるなど、楽しみ事や気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い出しは職員と一緒に出かけしており、散歩やドライブ、墓参りなど、希望に応じてなるべく多く外出する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に日中は施錠しておらず、必要に応じて一時的に施錠する際は、ご家族へ説明し納得していただいている。また、単独で外出された場合も想定し、日頃から隣接する同一法人の事業所職員に協力を依頼するなど、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に数回、近隣消防隊の協力を得ながら防災訓練を行っており、日中のみならず、夜間の通報・連絡・避難訓練など、具体的な訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは同一法人の管理栄養士に見てもらい、栄養バランスや食材についてのアドバイスを受けている。個別記録表に食事と水分の摂取量を記録しており、毎月体重測定を行いながら、入居者の身体状況の把握に努めている。また、水分摂取が進まない方に対しては、蜂蜜水等を使って摂取を促すなどの支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く広々としたダイニングには、ソファコーナーと掘りごたつのある和室空間が設けてあり、窓からは畑や青々とした芝生の広場が望める。ホーム内の至るところに花々が飾られ、季節を感じながら心地よく暮らせるように配慮されている。植木のある中庭にはウッドデッキが設けられ、自由に入出入りでき、思い思いの空間で過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子、ご位牌やテレビ、植木鉢など、使い慣れたものや馴染みのものを持ってきていただいている。壁にはご家族の写真や習字などが飾られており、本人にとって居心地の良い居室となるように配慮されている。		